［様式９－１］

福祉サービス等第三者評価結果

総 合 評 価

受診施設名	社会福祉法人　松花苑 ワークスおーい	施設種別	多機能型指定生活介護・指定就労継支援Ｂ型
評価機関名	社団法人　京都ボランティア協会		

平成２３年５月１日

総　　評	「ワークスおーい」を設置経営する社会福祉法人松花苑は、亀岡地域で半世紀前にさかのぼる知的障害者の支援を専門としてきた、歴史と実績のある法人である。周囲は山や畑に囲まれ、自然豊富な環境の下で利用者の生活や、作業活動が行われている。広い敷地に隣接し、花ノ木医療福祉センター、丹波支援学校亀岡分校があり、緊密な連携を取りながら支援活動が展開できる環境にある。 更に、近隣に障害者の地域生活や就労を総合的に支援する総合生活支援センターが開設されている。就労支援の課題に向けては地域の事業所や支援者とともに、障害者の支援に取り組む必要から設けられたものである。この事業化には、長年の当事業所の実践の裏付けをもとにリーダー的な役割を果たし展開されている。このことは、事業所理念の「必要な社会資源を整え、地域の理解を広げる」に叶うものとして評価できる。 このような長い歴史の中で培われ、知的障害福祉の開拓的な取り組みには、多くの関係者・関係機関が訪れ、年間を通し研修、見学、講師派遣、相談を数多く受け入れてきている。知的障害をもつ人達、家族、関係機関にとって、心強い事業体となっている。 現在の課題としては、新制度に移行した就労支援への取り組みの一方で、利用者の高齢化、重度化に向けた課題がある。介護保険と、障害者福祉の選択や、居場所づくりが求められている。施設長から、当事業所を利用して家族も安心し、よかったと思われる支援。５年先、１０年先どのような暮らしが彼らにできているかをイメージしながら、対応しているとの話に知的障害者の福祉に真摯に立ち向かわれている姿勢を強く実感した。 なお、今回評価対象となった「ワークスおーい」は、生活介護２０名、就労継続B型２０名の障害者支援施設である。
特に良かった点（※）	**１、作業活動と利用者満足** 作業内容はクリーニング、製パン・喫茶、農園芸、清掃、工芸作業である。これらの作業班に所属している利用者から、誇りと責任感を持ち臨んでいる思いを多数聞くことができた。自ら携わった生産品への誇り、製品を通した地域の人達とのやり取りに張り合いや、充足感を抱いている。作業活動の取り組みとして、夫々の種目にはその領域のプロや、思い切った設備投資がなされており、障害をもつ人達への作業支援姿勢と、条件整備のあり方の成果と理解できる。 **２、利用者のニーズ把握について** 利用者の日常的なニーズ把握と、対応に向けた取り組みに対し、家族への連絡帳を活用し利用者や、家族に語りかけられた内容、更に日々の様子が丹念に記録され、実質的な支援に連動し活かされている。これらの内容から、利用者に寄り添っていこうという職員の気概を強く感じ取

	れた。具体的で個別性が把握されていて、利用者本位の実践と高く評価できる。 **３、就労継続移行に向けた取り組み** 雇用環境の厳しい時期ではあるが障害者雇用関連制度を研究・活用し、関係機関と幅広い連携のもとに組織的な取り組みがなされている。連携の柱になっている障害者・生活支援センターにおいては、企業開拓員によって、企業実習先件数を伸ばすとともに、就労件数も増加させている。「ワークスおーい」の利用者も経験や実力をつけ就労に向け、これらの制度を仲立ちに企業就労に挑戦している。就労支援の一環として、関係機関連絡会、就労ボランティア育成、セミナー開催等、積極的な企画や、周囲への働きかけをし、障害者の就労に向け、当事業所はじめ関係者が一体となった取り組みがされている。
特に改善が望まれる点（※）	**１、個別の特性の反映された事業報告・事業計画の作成** 実地調査において職員・利用者が多岐にわたって活躍されている様子が把握でき、職員の仕事への関心の高さや積極性が窺えた。夫々の現場の現状と問題点、課題の認識は高く、将来への展望も高いものがあると考えられた。しかしこれらの現場の特色や個性が事業報告や計画に十分反映されていないように受けとめられた。施設内での具体的な取り組みや課題認識を反映した事業報告書・計画書の策定に向け努力されると、職員の全体観が高まると共に、施設運営の透明性がいっそう高まるものと思料される。 **２、人材育成にかかる研修計画** 現場の高齢化や、重度化が進む中で、「支援の力量アップ」の必要から、障害に関する専門研修、就労支援に関する研修に事業所として積極的に取り組まれ、評価できる点といえる。しかし、職員一人ひとりの課題を明確化し職員個別の育成計画のもとに研修に参加させる仕組みには至っていない。重要な課題である人材確保については基本姿勢を明確化し、人材の確保・育成計画を作成するとともに、体系的、具体的な教育・研修計画が中長期計画は、流動的な時代故に無理としても、年次計画に位置付けられることが、望まれる。 **３、広報活動の充実** 長年、多様な知的障害者への支援活動がなされて来ている法人であり築き上げられてきた伝統や、実践を引き継いでいく取り組みとして、広報活動の充実を提案させていただく。日々の実践や、利用者・家族・支援者などの声はもとより、法人の実践をリードされてきた人達の考え、知的障害福祉の歴史を実践の場から伝え後世に引き継ぐ資料になることを望みたい。

※それぞれ内容を３点程度に絞って掲載しています。評価項目毎のコメントは「評価結果対比シート」の「自由記述欄」に記載しています。

京都府福祉サービス等第三者評価事業

［様式９－２］

【障害事業所版】

評価結果対比シート

受診施設名	社会福祉法人 松花苑　ワークスおーい
施設種別	多機能型指定生活介護・指定就労継支援Ｂ型
評価機関名	（社）　京都ボランティア協会
訪問調査日	2011年3月2日

Ⅰ　福祉サービスの基本方針と組織

評価分類	評価項目		評　価　細　目	評価結果 自己評価	評価結果 第三者評価
Ⅰ－1 理念・基本方針	Ⅰ－1－(1) 理念、基本方針が確立されている。	①	理念が明文化されている。	A	A
		②	理念に基づく基本方針が明文化されている。	A	A
	Ⅰ－1－(2) 理念、基本方針が周知されている。	①	理念や基本方針が役員及び職員に周知されている。	B	B
		②	理念や基本方針が障害のある本人（家族・成年後見人等含む）に周知されている。	B	B
Ⅰ－2 計画の策定	Ⅰ－2－(1) 事業計画の策定について	①	各年度計画を策定するための基礎となる中期（概ね3年）もしくは長期（概ね5年以上）計画が策定されている。	A	A
		②	事業計画の策定が組織的に行われている。	B	B
		③	事業計画が職員に周知されている。	B	B
		④	事業計画が障害のある本人（家族・成年後見人等含む）に周知されている。	C	C
Ⅰ－3 管理者の責任とリーダーシップ	Ⅰ－3－(1) 管理者の責任が明確にされている。	①	管理者自らの役割と責任を職員に対して表明している。	B	A
		②	遵守すべき法令等を正しく理解するための取り組みを行っている。	B	B
	Ⅰ－3－(2) 管理者のリーダーシップが発揮されている。	①	質の向上に意欲を持ちその取り組みにリーダーシップを発揮している。	A	B
		②	経営や業務の効率化と改善に向けた取り組みにリーダーシップを発揮している。	A	A

[自由記述欄]

Ⅰ－1、法人理念は3年前に新たに明文化されたものである。内容は、障害者福祉の基本的な考え方、支援理念、支援原則を盛り込んだものになっている。理念は時代に合わせ見直していこうと考えられている。また、基本方針と共に年度初めの職員会議等で確認されている。ただし、職員の雇用形態が多様化しているため、実務を担当している非常勤職員への周知徹底が不十分である。利用者への周知においても同様である。透明性の高い施設運営と利用者の生活支援が望ましいとされている時代だけに、理念と基本方針の浸透に向け、引続き工夫や検討を期待したい。とくにこのことは、当事者のプライドや所属意識を育成することにも活かせるため、利用者が理解しやすい内容に変化させていくことも視野に入れ検討されることをを期待したい。

Ⅰ－2　実地調査において、職員・利用者が多岐にわたって活躍されている様子が把握できた。また、利用者に寄り添っていこうとする職員の態度がとても感じ取られ、良好であった。しかしながら、何故か、事業計画には、夫々の現場・部所の現状と問題点、課題認識、利用者の要望、今後への展望等が具体的に示されていない。たしかに、事業報告や計画は、法人各施設ごとに要領よくまとめられ、法人の活動の全貌が把握できるが、施設内の各現場ごとの様子が明確化されていない。また、施設全体の職員研修及び職員の業務の質の向上、利用者への個別支援にかかる事項についても、同様である。重要な項目を掲げて、内容を充実させる必要はないか。あるいは、法人全体の事業報告・計画書に合わせて施設の事業報告・計画書がもっと詳細に作成されてもよいと考えられる。事業計画が利用者に周知されていないことは誠に残念である。利用者に身近な職務、生活に関係する計画や課題をわかりやすく提示していく努力が望まれる。

Ⅰ－3　管理者はその責任性が体制図に位置づけられ、組織的にも周知されていると考えられる。また、意欲的、積極的にリーダーシップが発揮されている。ただ、今回の評価の着眼点において改善に向け検討が望まれる課題として、1、管理者は自らの役割と責任について、広報誌等に法人が取り組もうとされている課題や考え方などを含め、適時アピールされること。2、業務推進にあたって遵守すべき法令等のリスト化と職員への啓発の取り組みを具体化されることを、提起させていただく。リーダーシップに対する今回の評価の着眼点の一つに「施設サービスの質の向上について組織的に具体的な体制を構築する」と示されているが、現場・部所ごとの成果や課題認識を話し合い、施設全体に位置づけ集約する習慣、また施設全体の計画に反映する取り組みが不十分である。中堅職員が施設全体を視野に入れてますます活発に活躍されていく必要があるものと認められる。

Ⅱ　組織の運営管理

評価分類	評価項目		評　価　細　目	評価結果 自己評価	評価結果 第三者評価
Ⅱ－1 経営状況の把握		①	事業経営をとりまく環境が的確に把握されている。	A	A
		②	経営状況を分析して改善すべき課題を発見し、改善を行っている。	A	A
Ⅱ－2 人材の確保・養成	Ⅱ－2－(1) 人事管理の体制が整備されている。	①	必要な人材に関する具体的なプランが確立し、職員のやる気向上に取り組んでいる。	B	B
	Ⅱ－2－(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。	①	職員の就業状況や意向を把握し必要があれば改善する仕組みが構築されている。	A	B
		②	職員の福利厚生や健康の維持に積極的に取り組んでいる。	C	B
	Ⅱ－2－(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。	①	職員の教育・研修に関する基本姿勢が明示されている。	B	B
		②	個別の職員に対して組織としての教育・研修計画が策定され計画に基づいて具体的な取り組みが行われている。	B	A
		③	定期的に個別の教育・研修計画の評価・見直しを行なっている。	B	B
	Ⅱ－2－(4) 実習生の受け入れが適切に行なわれている。	①	社会福祉に関する資格取得のための実習生の受け入れと育成について基本的な姿勢を明確にした体制を整備し、積極的な取り組みをしている。	B	A
Ⅱ－3 個人情報の保護	Ⅱ－3－(1) 障害のある本人等の個人情報を「個人情報保護法」に基づき適切に管理している。	①	障害のある本人等の個人情報を「個人情報保護法」に基づき適切に管理している。	A	A
Ⅱ－4 安全管理	Ⅱ－4－(1) 障害のある本人の安全を確保するための取り組みが行なわれている。	①	緊急時（事故、感染症の発生時など）における障害のある本人の安全確保のための体制が整備されている。	B	B
		②	災害時に対する障害のある本人の安全確保のための取り組みを行っている。	B	A
		③	障害のある本人の安全確保のためにリスクを把握し対策を実行している。	A	A
Ⅱ－5 地域や家族との交流と連携	Ⅱ－5－(1) 地域との関係が適切に確保されている。	①	障害のある本人と地域とのかかわりを大切にしている。	B	A
		②	地域の福祉ニーズを把握し、事業所が有する機能を地域に還元している。	B	B
		③	ボランティア受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	B	B
	Ⅱ－5－(2) 関係機関との連携が確保されている。	①	障害のある本人を支援するため、必要な社会資源や関係機関を明確にして連携している。	B	A
		②	家族との定期的な連携・交流の機会を確保している。	A	A

[自由記述欄]

Ⅱ－1　経営状況の把握について、国連の権利条約の行方、関係法の推移、自治体の動き等広範囲な事柄について、関係団体並びに地域のネットワークを通し情報を得ておられる。また、管理者は法人全体の財務担当者として、事業収支等に関心を寄せ、将来への事業展開に向けては、例えばワーキンググループを立ち上げるなど改善への対応に取り組んでいる。

Ⅱ－2　法人として、「人材育成の強化」は重点項目に挙げられ基本的な方向は示されているが、具体的な人材確保計画が作成されていない。就業などに関する職員意向について、管理者による職員の定期的な個別面談は一部の職員に留まり、全職員には対応出来ていない。ただし把握された課題はチーフや主任会議で検討され改善へと努力されている。労務管理の観点からは産業医または、カウンセリングなどの受けられる体制が整えられることを期待したい。福利厚生面は、民間社会福祉職員共済会、退職医療共済への加入と職員親睦会への補助制度が設けられている。人材確保について、他事業所と同様に困難な状況にある。職員の研修については、今の現場の高齢化や、重度化が進む中で、嚥下障害や、認知症、就労支援の課題への対応の必要から、「支援の力量アップ」を図るため、障害に関する専門研修、就労支援研修に積極的に研修に参加させている。職員から希望を申し出た場合も、勤務の調整や、研修費助成制度も設け支援している。今年は、受講してきた研修の検証や、評価のため、内部研修回数を増やすなど、研修には力を入れ、受講後の研修レポートもきちんと提出され、成果が読み取れる。しかし一人ひとりの課題を明確化し職員個別の育成計画のもとに研修に参加させるといった仕組みには至っていない。重要な課題である人材確保については基本姿勢を明確化し、人材の確保・育成計画を作成されるとともに、体系的、具体的な教育・研修計画が、中長期計画に位置づけられることが望まれる。実習生受け入れは、社会貢献の観点から、制度化しているが職員体制上、福祉関係の資格取得のための実習を優先にしている。

Ⅱ－3　個人情報の取り扱いについては、基本姿勢、規程が策定され、当事者・家族はじめ、関係者には書面にて、事業所としての姿勢を説明している。職員については、採用時・退職時に誓約書を交わしている。

Ⅱ－4 「安心・安全」支援は、重点課題と位置づけ、緊急時対応と、事故防止対策の強化、健康・情緒の変化に敏感に支援すると明記し、具体的な取組みをしている。リスクマネジメント等の研修に職員を参加させている。安全管理に関する内部の検討機関は主任会議であるが、そのなかに利用者はメンバーに入っていないが、参加の是非を検討されてはどうか。緊急時の対応に活かすことを意図し、障害の種類やリスク別にした管理体制について、目下模索中である。ヒヤリハット、事故報告書から発生、原因の分析を重ね再発を予防するため、主任会議や、各職員会議で検討し取り組んでいる。避難訓練は総合訓練が年2回、他に対象を限定した避難訓練が2回実施が確認できる。総合訓練には、消防機器の点検も同時にされている。当該訓練は、身体で覚えてゆくことが多く、現行の内容の検討が望まれる。

Ⅱ－5 法人の事業計画には「地域で暮らす」、「地域を変える」を取り組みの方向として挙げている。地元の自治会には、飛び地であった経緯もあり今まで加入していない。障害を持つ人にとって安心と、安全が見守られる地域との関係構築は欠かすことができない。管理者は地域の障害者関係団体との連携や、必要な組織の構築に、地域のリーダー的な役割を果たし、意欲的に取り組まれている。一般市民に対しては、作業活動の一環として喫茶と、パン販売の店を開店し、地域との交流機会にもなっている。他に事業所の敷地内で、納涼大会、「看看楽市」などを設け地域との交流を図っている。管理者としては、さりげない日常的な関心と、継続的な来訪を期待し、敷地へは門もなく、犬の散歩に来られるオープンな施設環境になっている。事業所は専門機関として講師派遣や、研修、見学を受け入れ地域に専門機能を還元している。ボランティアについては、作業補助として来訪しているものの事業所としてボランティアに対する基本姿勢等は明らかにされてこなかった。ボランティアの持っている技能等を活かし利用者の生活を豊かにするボランティア活動の導入を検討し、内容を整備されることが望まれる。

Ⅲ　適切な福祉サービスの実施

評価分類	評価項目		評　価　細　目	評価結果 自己評価	評価結果 第三者評価
Ⅲ－1 サービス開始・継続	Ⅲ－1－(1) サービス提供の開始が適切に行なわれている。	①	利用希望者に対してサービス選択に必要な情報を提供している。	B	B
		②	サービスの提供を始めるにあたり障害のある本人等（家族・成年後見人等を含む）に説明し同意を得ている。	B	B
	Ⅲ－1－(2) サービスの継続性に配慮した対応が行なわれている。	①	支援内容の変更や暮らしの場の変更にあたり生活の継続性に配慮した対応を行っている。	B	B
Ⅲ－2 個別支援計画の作成とサービス提供手順	Ⅲ－2－(1) 障害のある本人のアセスメントが行なわれている。	①	アセスメントとニーズの把握を行っている。	A	A
	Ⅲ－2－(2) 障害のある本人に対する個別支援計画の作成が行われている。	①	個別支援計画を適正に作成している。	B	B
	Ⅲ－2－(3) 個別支援計画のモニタリング（評価）が適切に行われている。	①	定期的に個別支援計画のモニタリング（評価）を適切に行っている。	B	B
	Ⅲ－2－(4) サービス実施の記録が適切に行なわれている。	①	障害のある本人に関するサービス実施状況の記録が適切に行なわれている。	A	A
		②	障害のある本人に関する記録の管理体制が確立している。	A	A
		③	障害のある本人の状況等に関する情報を職員間で共有化している。	A	A
Ⅲ－3 障害のある本人本位の福祉サービス	Ⅲ－3－(1) 障害のある本人ニーズの充足に努めている。	①	障害のある本人ニーズの把握を意図した仕組みを整備している。	A	A
		②	障害のある本人ニーズの充足に向けた取り組みを行なっている。	B	B
	Ⅲ－3－(2) 障害のある本人が意見等を述べやすい体制が確保されている。	①	障害のある本人（家族・成年後見人等含む）が相談や意見を述べやすい環境を整備している。	B	B
		②	苦情解決の仕組みが確立され十分に周知・機能している。	B	B
		③	障害のある本人（家族・成年後見人等含む）からの意見等に対して迅速に対応している。	B	B
Ⅲ－4 サービスの確保	Ⅲ－4－(1) サービスの一定の水準を確保する為の実施方法が確立されている。	①	提供するサービスについて一定の水準を確保する為の実施方法が文書化されサービス提供されている。	A	A
		②	一定の水準を確保する為の実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	A	A
	Ⅲ－4－(2) 質の向上に向けた取り組みが組織的に行なわれている。	①	サービス内容について定期的に評価を行なう体制を整備している。	B	B
		②	評価の結果に基づき組織として取り組むべき課題を明確にし、改善策・改善実施計画を立て実施している。	B	B

[自由記述欄]

Ⅲ－1　施設運営の様子を伝える情報提供についてさまざまな媒体を活用して実施されているが、公共施設等多数の人が手にすることができる場所での資料提供も検討されてはいかがか。 地域生活を始めようとする利用者の移行に関する手順と引継ぎ文書の作成等については、今後に検討が必要である。 利用者へのサービス提供開始時の情報提供に関する理解は、肯定的な回答はアンケートでは約半数であった。

Ⅲ－２　利用者の歩みと現況を把握し援助につなげていくニーズアセスメントとモニタリングは当事者の立場に立って行われていると認められるが、記載の内容や方法、表現にいっそうの丁寧さと専門性の向上が望まれる。モニタリング内容を反映して再アセスメントを行う等、細かい手続き事項の実施については、今後改善されていくことを期待する。 また、個別支援計画を関係職員に周知する取り組みの充実が望まれる。なお、これらの実務が就労支援や日中活動が終了してから行うことがほとんどのようで、事業所のご苦労が感じ取れる。

Ⅲ－３　利用者ニーズを日常的に把握し対応しようとする取り組み、そして家族への連絡帳を活用して利用者や家族に語りかけること、さらに日々記録を丹念に記載し、しかもその記録を利用者ごとに保存し活用することが連動して行われている。その内容から、利用者に寄り添っていこうという気概を強く感じ取ることができ、素晴らしい取り組みをされていると、高く評価したい。このことは、他の諸施設の模範ともなろうかと考えられる。なお、今後家族への連絡帳については徐々にこれを活用する件数を増やしていかれることを期待する。

Ⅲ－4「当事者参加による生活運営」への課題がいくつか見られる。障害のある本人参画のもとでの検討会議の開催、利用者に配慮した支援体制にかかわる掲示物の作成、相談・意見・苦情の出しやすい工夫、利用者への配慮を前提とした苦情内容や解決結果の公表、利用者からの意見への対応マニュアルへの定期的な見直し等である。これらは今後に、より質の高いサービス提供を行おうとする場合の着眼点でもあるので、検討をされていくことが望まれる。サービスの質の向上に向けた取り組みを組織的に行うことについては、自己評価とその分析・検討を評価基準や様式を定め職員が複数で実施すること、また必要となった改善点に対して組織的に取り組む等についての履歴が不十分のようである。今後に期待される。

Ⅳ　障害のある本人を尊重した日常生活支援

評価分類	評価項目		評　価　細　目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
Ⅳ－1 障害のある本人を尊重した日常生活支援	Ⅳ－1－(1) 障害のある本人を尊重する取り組みがなされている。	①	障害のある本人を尊重したサービス提供について共通の理解をもつための取り組みを行っている。(プライバシーへの配慮)	B	A
		②	コミュニケーション手段を確保するための支援や工夫がなされている。	A	A
		③	障害のある本人の主体的な活動を尊重している。	B	A
Ⅳ－2 日常生活支援	Ⅳ－2－(1) 清潔・みだしなみ	①	【入浴】入浴について障害のある本人(家族・後見人等含む)の希望を尊重したサービスが提供されている。	A	A
		②	【衣服】衣服について障害のある本人(家族・後見人等含む)の希望を尊重したサービスが提供されている。	A	A
		③	【理美容】理美容について障害のある本人(家族・後見人等含む)の希望を尊重した選択を支援している。	A	A
	Ⅳ－2－(2) 健康	①	【睡眠】安眠できるように配慮している。	A	A
		②	【排泄】障害のある本人の状況に合わせた排泄環境を整えている。	B	B
		③	【医療】障害のある本人の健康を維持する支援を行っている。	A	A
	Ⅳ－2－(3) 食事	①	【食事】楽しい食事ができるような支援を行っている。	B	B
	Ⅳ－2－(4) 日中活動・はたらくことの支援	①	障害のある本人の意思を尊重した日中の活動の取り組みを行っている。	A	A
	Ⅳ－2－(5) 日常生活への支援	①	障害のある本人の意思を尊重した日中の活動の取り組みを行っている。	A	B
		②	事業所の外での活動や行動について障害のある本人の思いを尊重した取り組みを行っている。	A	B
	Ⅳ－2－(6) 余暇・レクリエーション	①	障害のある本人の意思を尊重し、日常生活が楽しく快適になるような余暇、レクリエーションの取り組みを行っている。	A	A

[自由記述欄]

Ⅳ－1－(1)

プライバシーへの配慮は、入居施設における居室の個室化に取り組まれた経緯、利用者に居室訪問時のノック、居室に無断で入らないことを意識させる支援などから具体的な取り組みが把握できる。利用者アンケートに6割の利用者にプライバシーが守られているとの回答があった。関係文書類では倫理要綱、身体拘束、プライバシー規程などがあり、適宜研修内容に組み込まれ、職員による理解を促している。ただし、プライバシー保護に関する当事者や、家族への周知においては徹底しきれていない。

・コミュニケーション手段は、個々の利用者との日常のかかわりから、その特徴を把握し、絵やマカトンサイン等を使い、個別支援計画にも疎通手段が明記されている。

・利用者が主体的に運営する自治会があり、主任の職員も参加し毎月開催されている。食事、行事、役員の選挙、新人の歓迎会、通所バスを大きいものにといった要望も交わされ、求められた課題にはチーフの職員が中心となり検討し、環境整備等に活かせるよう努力している。

Ⅳ－2－(1)

清潔・みだしなみに関して、朝の作業前の点検から始まり、休日の身だしなみも含め、家族と連携し指導や支援をしている。製パン部は「衛生点検表」を設け厳密に身だしなみ、清潔の点検をしている。

・入浴について、サービスは行っていないが、家庭での入浴ができていない場合は、家族と必要な対応を相談し支援している。夏場のシャワー設備はある。

・衣服について、平日は施設が用意した作業服に着替え、汚れた場合は施設で洗濯をし、清潔を意識させる生活支援をしている。休日の身だしなみの確認をすることはあるが、たとえば洋服の購入などは家族がしている。

・理美容について、洗髪、爪の点検。食後の歯磨き、髭剃りについては必要とする場合は介助をしている。

Ⅳ－2－(2)

・睡眠について、通所事業所であるが、健康管理の一環として、連絡帳で把握し、状況によっては、受診同行し専門医の指示を仰ぎ支援をしている。日中睡眠を必要とする場合の対応、生活習慣の調整には家庭訪問を行い、時にはショートステイの利用を視野に家族と相談・支援をしている。

・排泄について、トイレの環境は、補装具や車椅子使用者への対応が将来的に求められることが予測される。使いやすく、介助しやすい環境が求められる。トイレ誘導を必要とする利用者も増えることが予測される。排泄チエック表や、利用者のトイレサインの職員間の共有化が、一層求めらる。

・医療については、利用者の高齢化・重度化に向け、利用者の健康面の状態について、初期段階での気づきが課題に挙げられ職員の利用者への日ごろのきめ細かな観察や、関心が求められている。連絡帳を通し家庭での健康面の情報、施設での体重、血圧など、看護師との連携はもとより、医療的な知識の学習が職員に求められている。

Ⅳ－２－（３）
・食事について、自治会において多く話題となり、利用者の食事への関心は深く、嗜好調査もされている。肥満の課題もあり、低カロリー食、治療食などの提供もされている。給食委託の関係で、「食事提供委員会」が設けられているが、このメンバーに利用者は入っていない。関心も高いため、検討を望みたい。食堂では、仲間や職員、調理師の人達とも会話を交わしつつ、穏やかな光景のもとに食事がとれている。食事量は、利用者によっては確認しつつ、適温の食事が提供されている。

Ⅳ－２－（４）
・５つの生産活動と、自閉症、高齢者対応のディサービスが行われている。重点課題に日中活動の再整備が挙げられており、内容的には、生産活動の場と、非生産活動の場を分けることが課題とされている。中長期計画に挙げられており、検討されている。
・金銭管理は、就労支援活動の一環として課題であるが、自己管理ができるよう支援をし、特段に学習プログラムは設けられていない。
・通所や、就労に向かう利用者であるため、安全管理に配慮を必要とする利用者には、不測の事態に備える学習や取り組みをしている。連絡先明示カードの携行は原則家族に委ねている。
・働く意識の強化の一方で、働く意欲を支え、持続させる観点から、余暇をいかに利用者が充実して過ごすか。利用者によってはガイドヘルパーを活用し、外出を楽しんでいたり、休日に一人で京都市内に行くことを楽しみにしている利用者もあり、駅まで徒歩、列車に乗り京都へ、バスで市中へと、その行動力に感心させられるが、さりげなく、見守られている当事業所の支援姿勢がうかがえた。「おーい余暇」といった事業企画と、その取り組も利用者の大きな楽しみや期待を提供しており、評価できる。